全教 枚方教育
全教・枚方教職員組合
枚方市西禁野 1-1-3
No.２０２５
2026. 11. 12.
TEL 848-3300
Fax 848-3052
組合ホームページ

11/6 戦争と平和、平和教育を考える交流会

開拓団を救うため「性接待」に差し出された 女性たちの実名告白 映画「黒川の女たち」

11/6(金)に、戦争と平和、平和教育を考える交流会を開催、映画「黒川の女たち」を上映、戦争や平和をめぐる動き、平和教育の状況について参加者で問題意識を交流し合いました。

戦前、岐阜県黒川村(現白川町黒川)から旧「満州」に渡った黒川開拓団は、日本の敗戦直後、襲撃から団を守るため、旧ソ連兵に助けを求める代わりに未婚女性を「性接待」に差し出しました。この性暴力の被害を近年になって実名で告発した女性たちと、その事実を碑文に残し、謝罪した戦後世代の開拓団遺族会の姿を描いたドキュメンタリー映画が「黒川の女たち」です。



満州に送り込まれた住民、 敗戦で軍や政府からも見捨てられ‥

軍部が独断で始めた軍事行動でつくった満州。その後国策で中国人々に代わって満州の土地を手に入れた岐阜県黒川村からの黒川開拓団。

日本の敗戦で、軍や役人は開拓団に知らせずに逃亡。見捨てられて取り残された団員達は、現地の人々からの襲撃から守るために、近くのソ連兵に助けを求めるしかない状況に。

その際ソ連兵から要求された「性接待」のために、女性たちを差し出すことが交換条件に求められました。

「助けてお母さん」「我慢しな、我慢しな」 手を取り合い、声を掛け合いながら耐えた

団員みんなが生きて日本に変えるため、女性たちも家族たちも、身を引き裂かれる思いで応じざるを得なかったといいます。

17 才以上の未婚の女性たちが、団の代表からみんなを守るためとその役割を求められ、断ることもできないまま、接待所に呼ばれてソ連兵の相手をする日々に。

少女たちは仕切りもなく、並べられた寝具のうえで、互いに手を取り合い、小さな声で「助けてお母さん」「我慢しな、我慢しな」と小さな声で励まし合いながら、ひたすら耐えていました。

帰国しても地獄だった 同郷者、家族からも偏見、誹謗中傷が

ソ連兵の相手を強いられる地獄の日々、しかし、女性たちには帰国してからも地獄の日々が続きさらに周りの誹謗中傷が追い打ちをかけます。

家族からも「汚れた女」とまで言われ、過去をしられることをおそれ、疎まれ故郷を離れざるを得なくなる人、過去を隠して独身のまま耐え続ける人、引き揚げの貧困の中で、周りもひたすら口を閉ざすことで、孤立に追い込まれてきました。

「なかったことにはできない」 語り始めた女性たち

「もう泣いてはいけないと思います。隠すことにより卑屈になり、戦争がぼかされ、またも危険方向にゆくのを黙って見ていられません」

佐藤ハルエさんは、なかったことにはできないと、実名で自らの過去を語り始めました。

しかし、雑誌への取材で語り始めた当初は、佐藤さんの意に反して、他の女性たちに配慮すると、匿名で地名も伏せられて出版、それでも地元の遺族会は雑誌を買い集めて焼却したといいます。

その後、遺族会の３代目会長が事実を知って衝撃を受け、周囲の強い反対を粘り強く説得して慰霊碑に事実を記した碑文をたてたことが大きな転機となり、マスコミにも大きく取り上げられるようになりました。

高市首相「反省なんかしておりませんし、反省を求められるいわれもない」 政府は今も 戦争の被害国民に、「国民が等しく耐え忍ぶべき」

佐藤ハルエさん、安江善子さんたちは「みんなのために犠牲になったのに、なぜ私たちが恥じて隠れなければならないのか」「二度と戦争はいけない。この事実を歴史から消してはならない」と声を上げました。

一方で高市首相は、30 年前に日本の国会、政府として侵略的行為に言及し、反省を盛り込んだ国会決議、村山首相談話にたいして、「私自身は当事者とは言えない世代ですから、反省なんかしておりませんし、反省を求められるいわれもない」として、国会決議、政府の姿勢は問題として追及していました。

黒川の女性たちとのあまりの違いに驚くばかりです。

高市首相のもとで、平和憲法の原則を大きく方向転換する大軍拡や、自衛隊、防衛政策の転換が進められています。

一方で政府は、空襲、旧満州などからの引揚者などへの賠償・補償は一切行わず、「「国民が等しく耐え忍ぶべきやむを得ない犠牲である」としてきました。(引揚げ者には、数千円～10 数万円の給付があるにとどまります)

参加者の声 戦争で被害を受けるのは普通の人々、その経験こそ伝えていく取り組みを

視聴後の参加者の感想交流でも、「断片的に聞いてはいたが、改めて当事者たちの口から語られる事実があまりにも重く、言葉に簡単にできない」

「戦争で犠牲になった人々のリアルな事実は取り上げられず、政府や今の政策を進める人々は都合の良いことばかりを広めている」

「改憲や軍拡の動きが強められ、現場で教育の自由が狭められている。かつて同じように政府の言う通りの教育で多くの教え子を、戦場や満州の地に送り出した教育の過ちに陥らないことが必要」

など、多くの声が聴かれました。

組合員のご厚意で DVD を活用してほかでも見ることができます。

ANNNews チャンネル 「史実を刻む～語り継ぐ”戦争と性暴力”」でも、性接待の背景や経過、女性たちの証言が紹介されています。 ⇒ Yotube QR コード

1万以上の賃上げ勧告、実現に必要な 府労組連交渉

6 日交渉では前進回答なく。17 日交渉で要求実現を！

11/6 に大教組と府職労でつくる府労組連は、府当局と人事委員会勧告の完全実施とともに、さらなる要求実現に向けて、団体交渉を行いました。府の人事院会勧告ではすでにお知らせしたように全世代に 1 万円程度以上の賃上げが示されましたが、吉村知事、府当局が受け入れて実行するかどうかによります。実行させるために必要なのが、組合による交渉です。6日の交渉では、まだ実行するとの姿勢も明らかにしていません。

勧告実施は最低限の責任、直ちに回答を

府労組連は、交渉の中で以前から中堅・ベテラン、再任用の教職員の賃上げを強く要求してきました。今回の府の人事委員会勧告でそれを一定反映した内容が示されたとして、勧告すみやかな実施を求めました。

また、55 歳で昇給が停止されるうえ、60 歳以降では 7 割に給料が引き下げられるなど、働き続ける上で支障となっている問題を、府として責任を持って対応するように求めました。

常勤講師にも教諭と同じ 2 級給料表の適用を

また、常勤講師を 1 級という教諭より低い給料表を適用し続けてる点について、国の通知でも改める必要があるとしており、今回の府の人事委員会勧告でも「適正な級への格付けを行うよう対応されたい」としている点からも、速やかに実施するように求めました。

ほかの自治体でも常勤講師への、教諭と同じ 2 級適用が広がっていることや、深刻な教員不足の中で長年働き続ける講師の先生の働きにふさわしい待遇を保障すべきです。

通勤手当、駐輪場代支給の拡充を

今年度から自動車通勤での駐車場代を通勤手当支給の対象となりましたが、一方で自転車通勤の駐輪場代は対象とされておらず、府労組連でも支給を求め続けています。

特に、電車と自転車での通勤などで駐輪場の負担など切実な要求があり、府の勧告でも「導入に向けて検討を進めていく」としており、支給するように強く求めています。

府当局も確認「休憩時間『取得していない』のに『取得』扱いはあってはならない」

休憩時間の問題でも、休憩時間が適切に取得できていない実態を指摘して改善を求めました。
府当局と間でも「休憩時間を取得していないにもかかわらず「取得した」として扱うことがあってはならないと確認しました。

育産休代替に正規教員配置を、前倒し任用の拡大を

深刻な教員の「穴あき」「未配置」問題について、育産休等の代替を講師ではなく正規教員を配置するよう求めるとともに、前倒し任用についてもさらなる拡大を強く求めています。

また、子の看護休暇等についても日数や対象年齢、条件の拡充を求めています。不登校や障がいのある子どもを持つ教職員が、子どもの付き添いや介助のために休暇を取得しやすくすることで、子育てをしながら働き続けられるように歌えています。

「勧告」ではなく組合の交渉で決まる。組合に加わり、声を上げよう

全世代にわたり月 1 万円程度の給与引き上げを人事委員会は府知事に「勧告」しましたが、実施するかどうかは、府と労働組合との交渉で決まります。大阪では維新の知事が、無視したり、引き下げることもありました。 多くの教職員が組合に加わり、声を上げることが何より重要です。

17 日の団体交渉に向けて、さらに力を合わせて声を上げていきましょう。

アンケートから浮かび上がる 初任者のナマの声（続き）

初任者の皆さんへのアンケートに多くの回答をいただいています。市教委や学校でのアンケートなどでは出てこない、思っていても出せないような、生の声がたくさん寄せられています。

初任の 1 年は自転車も含めて禁止！？「何かあったら皆さんを守れないから」

他市は OK なのに、通勤、出張も大変、クラブの引率まで、初任者の負担考えて

枚方では市教委から初任の1年は、公共交通機関での通勤の指示があり自転車も含めて禁止と伝えられたと多くの人から声が出ています。

「事故を起こしてしまうと、皆さんのことを守れない」「仮採用なので、本採用になれない」ことを挙げて上記の指示が伝えられたといいます。

これには「守るためなら不満はない」「特に違和感はない」という声がいくつかある一方で、多数の初任の方々から、多くの疑問や不満も出されています。

■「20分のところを1時間かけて通勤に」 ■「移動に時間体力奪われ、余裕がない」
■「出張多いのに不便で、授業にも影響大きい」 ■「不便な勤務地でバスの本数も少ないのに大きな負担」
■「ありえない、理解できない、部活の試合で移動や荷物運びにも大変なのに、まったく理解できない」
■「なぜだめなのか理由が理解できない、説明がされていない」
■「事故や、失職なら2年目以降も同じのはず」 ■「市教委の理由、説明は『圧迫』に聞こえる」
■「他市では認められているのに、なぜここまで制限されるのか理解できない」
■「経験のある一般企業では、1年目、2年目でこのような待遇が違うことを聞いたことがありません。

どれも初任者の切実な実態や声が示され、どうしても納得できない、なぜこんなことが行われているのか、どこにいえばいいのかという強い思いもひしひしと感じられます。

特に、多忙や困難に追い込まれる中で、少しでも状況や思いを聞いてほしいと思っても、上から目線で否定されたり、初任ならこれで当然とされるような扱いに、多くの方が、心がおられるような思いを持っています。

「試用期間なのだから」と厳しい制限を指示されるのに、4月から担任、授業、分掌、部活動顧問にと、初任で知識経験ない中でフルの業務・責任を求められる初任者には、納得が困難な現実・対応といえます。

初任で困難な役割、学級も保護者も授業も部活顧問も、休日を休日と思えずツライ

本当は苦しい。とにかくしんどい。思っていても言えない。

その他の研修や学校業務、初任者の悩みでも、切実な声が次々つづられています。

■ 研究授業必要だとは思うが2・3学期の 2 回ならゆとり持って準備できるのに
■ 毎日の業務で精いっぱい。研究授業もう少し少なくしてほしい
■ 一般企業では 3～6 か月センパイの仕事を勉強して現場に。1 年目は担外で勉強させてほしい
■ 部活は正直したくない。 ■早く地域移行してほしい ■休日を休日と思えない日々が続いてツライ。
■ 経験のない部活指導で、生徒が話を聞いてくれない、生徒のふるまいを指導しても反発されてツライ。
■ とにかくしんどい。自分の時間がなくなってしまった。こんなはずじゃなかったのにな、と思いながら働いている。でも初任者だから仕方ないのかなと思う。
■ もっと、初任者に優しく手を差し伸べて、サポートし合える環境づくりがあると、教員不足もなくしていけるのではと感じました

市教委として、初任者、経験の少ない先生たちに、課題や指示ばかりでなく、このような声に耳を傾ける姿勢こそ求められます。組合としても、この声を大事にして条件整備を市教委に求めていきます。

全教（全日本教職員組合）の枚方教職員組合のニュースです　枚方教組に加入して学校や働き方を変えていきましょう